



東九州支部報

第96号

公益社団法人日本山岳会東九州支部
2022年1月25日(火)発行



忘年登山(12月月例山行)花牟礼山 2021.12.12 旧阿蘇野小学校にて撮影

も く じ			
1. 支部活動		私の無名山ガイドブック(No.83)	14
(12月月例山行=忘年会登山)花牟礼山	2	個人山行_日本百名山紅葉の旅	15
(11月月例山行)扇ヶ鼻(大分百名の新設の山)	3	こぎこぎ倶楽部 万年山こうもり尾根	17
研修①(中級者登山講習会)日出クライミング	4	こぎこぎ倶楽部 御側山・上塚尾など	18
研修②(中級者登山講習会)比叡山南面	4	こぎこぎ倶楽部 倉木山～烏嶽縦走	19
研修③(中級者登山講習会)冬山 吉和冠山	6	こぎこぎ倶楽部 小豆穴・金剛野峠・掛橋尾根歩き	20
第8期 登山入門教室(2)(3)	7	大分百名完登!「酒天童子山」(古谷あい子)	21
古道調査(始動宣言)	10	3. 支部からの報告(支部会議報告)	22
2. 個人投稿	11	ルーム利用状況	22
ペンリレー(第43回)	11	4. お知らせコーナー	22
より安全な登山のために(No.43)	12	月例山行予定ほか	22
三角点と山城探検シリーズ(第31号)	13	後記	24

(忘年登山) 花牟礼山

(12月 月例山行)

2021年12月12日（日）

報告 吉田 三華（会友 251）

12月の月例山行は花牟礼山。曇天だが視界は良好で風も弱く肌に優しい登山日和だった。コロナ感染拡大防止のため会員が待ち望んでいた忘年会は中止となり、登山のみの忘年登山となったが、それでも37名が参加する賑やかな山行となった。

由布市役所庄内庁舎集合で旧阿蘇野小学校に移動した後、忘年登山ということで安東支部長と下川リーダーからご挨拶をいただき、西さんを中心に41名で写真撮影を行った。

支部長の挨拶（解散式を含む。）を勝手に要約すると、①会のレベルアップ、②会存続のための会員獲得の必要性、③（夫婦であっても）参加者各自で地図を準備すること、④花牟礼山の名の由来、⑤大分百山と新大分百山について、⑥古地図のコピーを販売中。興味のある方は支部長まで・・・だったはず。うろ覚え過ぎて全然違ったらすみません。（汗）

9:15 旧阿蘇野小学校発。参加者は約7人ずつのグループに別れ、一般登山道ではない林道を登っていく。林道で安心させておいてからの人工林の急登、そして、一瞬の稜線歩き。下りなしの無駄のないルートで11:25 山頂に到着した。当初は下山後に昼食予定だったが、山頂到着予定時刻を過ぎたため山頂で昼食・写真撮影。12:20 下山開始。下山は往路と違う道を周回して下る。無心で前の人について行き、藪を抜け、急登を滑り落ちるように下山した。林道に着いたときにはほっとした。

13:50 旧阿蘇野小学校着。そして解散式。あっという間の4時間半だった。

下山後は山行参加者大半がそのまま、支部長主催のオプションツアー「大船山（1/25000 図）左上記載の沼めぐり」、サブタイトル「大分にこんなところがあるのか」または「地図に池があるならなぜ行こうと思わないのか」に参加した。ぐるっとくじゅう周遊道路から歩くこと約10分で水のない沼があった。黒澤明監督「乱」のロケ地の一部だったらしい（受け売り）。池からは黒岳と大船山が間近

に見え、当日の曇天が黒澤監督映画の雰囲気を一層醸し出していた。是非、池に水が輝く頃にも再訪してみたい場所だった。16:00 頃に現地解散となった。

下川リーダーをはじめとして準備してくださった皆様、ありがとうございました。おかげさまで今回も無事に全員下山できました。昨年4月に入会して以来、数回参加させていただきましたが、各山行ともにルートの下見から参加者の駐車場確保まで、入念な事前準備をいただいていることに感謝しています。

最後に自分自身の反省ですが、支部報に「地図を読んで、山を見て、登ります。」と記載されていたのを忘れ、当日は地図を持たずに参加してしまいました。いつの間にか甘えていた自分を反省し、次回は心を入れ替えることを誓います。

（追記）下山後に支部報の原稿依頼がくることがあります。山行中に他の参加者が原稿依頼を受けて焦る姿を人ごとだと思って見ていました。皆さん、次はあなたの番です。



花牟礼山山頂

<参加者>

下川リーダー、安東、星子、飯田、興田、阿南、鹿島、中野(稔)、中島、櫻井、渡辺(千)、渡辺(和)、若月、丹生、神田、丸井(弘)、丸井(元)、尾家、河野、久知良、深草、平原(健)、笠井、木下、岩崎、松村、工藤、清水(道)、賀来、古谷(耕)、大星、平原(瑞)、三浦、榎園、中野(梨)、古谷(あ)、飛高、宮原、安部、吉田、西、石川

扇ヶ鼻(新に取り入れた山)

11月 月例山行

2021年11月14日(日)

準会員 A-0221 山村文彦

11月14日(日) 天気は朝の内、どんよりした曇り空で肌寒い天気。

11月の月例山行きは、瀬の本登山口から岩井川岳(1,522m) 経由、扇ヶ鼻(1,698m) に向かい赤川温泉登山口に下るコース。参加者24名が、集合場所赤川温泉登山口に8時集合、久住山の山陰には雪が残っているのが麓から見え一抹の不安がよぎった。矢上リーダーのもとミーティングを開始、本日の行程表が配られ説明点呼、その後車8台に分乗り瀬の本登山口に移動。

8時30分、瀬の本登山口(1,066m)を出発、いきなりの急登開始。麓に辛うじて残った紅葉を楽しみながら、もみじやカエデで一杯の落ち葉を踏みしめて、30分余り歩くと1200m地点、木洩れ日の中から薄日が差し体も温まり次第に汗ばんできた。尾根に出るまでの間は、急登の連続で適時、休憩を取りながら息を切らしての踏ん張りが45分程度続いた。やっと、尾根に出ると展望が開けたものの、あいにくの雲で遠くに見えるはずの阿蘇山の噴火が残念ながら見えなかった。

10時過ぎに岩井川岳に到着、それまで出ていた日差しがなくなると、風も冷たく、にわかに寒さが増してきたことから寒さ対策として、防寒着が必要となった。一旦点呼確認後、10時30分ごろ、再び登頂を開始し、11時過ぎに扇ヶ鼻山頂(1,698m)に到着した。その間、昨日の雪が残る急な山道を滑らないように、注意して登って行った。多分、今年初めての雪を経験したメンバーが大半だったと思われる。油断大敵、滑って転んでオオ痛県になるところであった。ちょっと早い昼食休憩。昼食後、飯田さんによるハイテクを使ったリモートシャッタ

ーで全員集合写真を撮影、山頂付近に吹き上げる風は冷たく、体感温度以上に寒く感じ、早々に下山することとなった。

11時45分ごろ、赤川温泉登山口をめざして下山を開始。下山道は岩場が険しくややぬかるんだ状態で滑りやすくなっており、足の踏み場に注意しながらの下山となった。頂上を離れると南斜面で冷たかった風も弱くなり、再び日差しの中でぽかぽか陽気で汗ばむようになった。ときどき、狂い咲きのミヤマキリシマもチラホラ見られた。脱衣の休憩タイムを取りながら、最後は降り積もった落ち葉を蹴散らしながらの下山で足も軽やかに若いリーダーのもと快適な登山であった。リーダーが若くスピードアップが心配されたが、適度な休憩タイムで一人も脱落者が出ずに和やかな雰囲気の中で、予定どおりの月例登山であった。

13時30分には、赤川温泉登山口に到着し、点呼全員無事を確認し解散となった。走行距離6.4キロメートル、上り664m(2時間30分)、下り674m(1時間35分)



扇ヶ鼻山頂

<参加者>

矢上リーダー、阿南、丹生、久知良、中野(稔)、中野(梨)、諸田、中島、古谷、平原(健)、平原(瑞)、大渡、賀来、下川、笠井、河津、飯田(勝)、清水(道)、清水(久)、柳瀬、丸井(弘)、丸井(元)、飯田(修)、山村、

中級登山講習会(1)

クライミング(日出の岩)

2021年11月3日(水)

会友 253 上野展子

メンバー6人を2チームに分け、1チームは基礎からクライミング技術を習い、その後岩登りを体験。もう1チームは、実践練習(岩を2ピッチ登った。)を行なった。

その後、クライミング中にアクシデントが起こった時、どのような対処をすればいいか、何ができるかの課題に取り組んだ。

今回はリードが転落動けなくなりビレイヤーが救助に行くと言う想定での訓練。

どうしたらいいか自分たちで考えやってみる。

「それじゃあ、リードが落ちるよ!」「それじゃあ、ビレイヤー登れんよ!」と安東さんの声。難しい。ロープ、カラビナ、スリング、タイブロック、グリグリ等々使ってシステムを構築してもらい、ロープを登ってみるが、なかなか上手くいかない。クライミング中に実際にアクシデントが起こった時、持っている装備で、また今の自分の能力で何が出来るか冷静な判断が求められると思った。そして、何より日頃からの勉強、実践トレーニングが必要と感じた。



救助トレーニング実施中!

<参加者>

安東、阿南、佐藤(彰)、佐藤(裕)、田所、笠井、上野

中級登山講習会(2)

クライミング(比叡山南面)

2021年12月5日(月)

準会員 A-0250 矢上将大

宮崎県にある比叡山は「九州のヨセミテ」とも呼ばれている。全国から多くのクライマーが集う場所であり、ルートも豊富で、初心者から上級者までクライミングを楽しむことができる。ここが、今回の研修場所となる。



比叡山南面

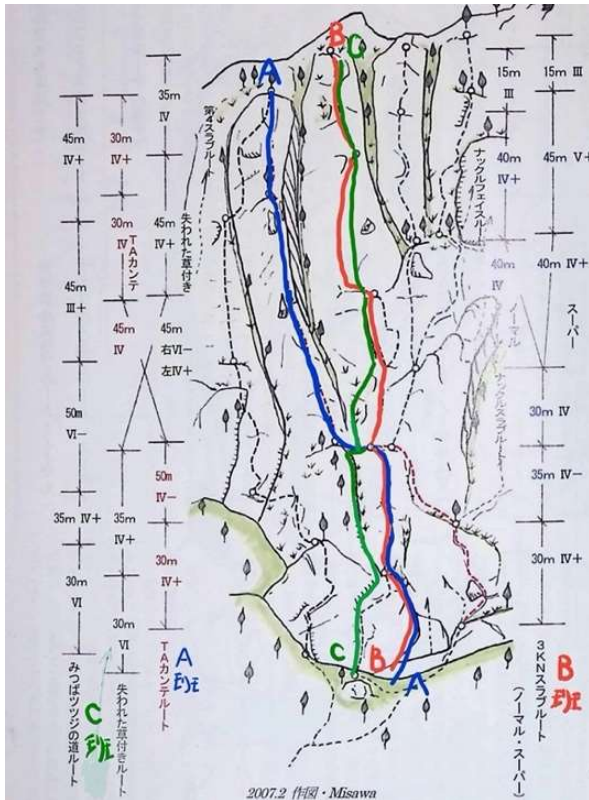
いつものように戸次集合、9時に比叡山駐車場に到着、気温3℃。今回は、外部参加者を含め9名で3パーティーに分かれる。当初は3KN ノーマルルートを予定していたが、取り付きに先行パーティが数組いたため、ルートを変更して10時前登攀を開始する。

【A班：安東・佐藤(裕)・松尾<TAカンテ・グレードIV+>】

【B班：笠井・上野・橋本<3KNルートノーマル・グレードIV+>】

【C班：田所・矢上・二宮<失われた草付き・グレードVI>】

私のC班は、1ピッチ目(30m)に核心部がある。傾斜の強いスラブを田所さんがリードで進み、いつもより慎重に、小さなカチに手がかりを見つけ、オーバーハング気味の壁を越えていく。フォローが続くが、これまで登ったIV+と比べ明らかに難易度が高い。右を見るとA班、B班が登っている姿が見える。南面は日が当たり暑いくらいだ。



<ルート略図>

2ピッチ目(35m)終了後、3班が交差し、そして各ルートを登り出す。B班は、物足りなかったようで、3ピッチ目から敢えて難易度の高い、我々のルートを選択。フォローで同時に登攀する笠井さんと上野さんの姿は勇ましく、恐れを知らぬ「もののふ」のように登っていく。2人の姿に背中を押され、3ピッチ目(45m)は私がリードで登っていくが、しかし、最後のピンからの数メートルに確かな手がかりがない！ピンに繋がったヌンチャクを掴み、時間が経過。そして「Help～」上にいたB班からの助けロープのおかげで、一步を踏み出せる。僅かな凹凸にシューズのフリクションを効かせ、終了点へ登り上がる。改めてリード者とフォロー者のプレッシャーの違いを悟る。左を見ると、青すぎる空の下、佐藤(裕)さんが、カンテを登っていく、途中何か化石のような物を発見したとかしないとか。そして、B班リード者が4ピッチ目の終了点へ到着する頃、フォローで田所さんが3ピッチ目の終了点へ到着。笠井さん、上野さん、田所さん、私の4人が揃う。そして、4ピッチ目だが、とても嫌な感じがする。C班は、登るか懸垂下降していくか、考えた末。田所さんが機転を効かせ、繋ぎ合わせたスリングをB班フォローの笠井さんに結びつけ、2人同時に息を合わせなが

ら、登り上がることにした。(これで、C班リード者が落ちてでもB班ロープで確保ができる。)

トラブル発生時にも、＜何ができるか、これまで安東支部長から学んだ知識と持っている道具で、冷静に考える。＞この一連の研修の意図を理解する。

苦労の末、4ピッチ目を終え、最後の5ピッチ目(35m)の終了点で、全班が揃う。予定時刻を大幅に過ぎた15時に登攀終了。

今回の研修を終え、前夜の日本山岳会のオンライン晩餐会で安東支部長が語っていた「これからの支部のために、正しい登山知識を伝えていきたい。」という言葉の重み、その想いを皆で改めて受け止めた。

比叡山南面 TAカンテ 安東



比叡山南面 勇ましく登る 笠井



<参加者>

安東、佐藤(裕)、田所、笠井、上野、矢上、
(外部参加者：二宮・橋本・松尾)

中級登山講習会(3)

雪上(吉和冠山・寂地山)

2022年1月8日(土)

会員 16315 佐藤裕之

1月 8日(土)

北日本では大雪のニュースが続いているが、中国地方は降雪が少ないようで、当初予定された薊ヶ岳を行先変更して、吉和冠山、寂地山となった。冠と寂地は、薊に比べると特に難所もないようで、大いに安心するとともに、ちょっぴり残念な気にもなった。当初、8人参加予定であったが、最終的に5人の参加となる。

吉和冠の登山口、塩原温泉は吉和ICに近く、大分から4時間ちょっと、アクセス良好である。高速架橋の直下に駐車場があり、車を置き、荷物を整え、11:05出発。駐車場までは雪も少なかったが、歩きだすとすぐに銀世界となる。林道から沢に入り、2時間ほど歩くと標高1000mちょっとの小平地に着く。ここにテントを張ることにする。テントを張り終えたのち、時間があるので、近くのクルソン岩まで行ってみる。ここで、自分はスノーシューを持参したのであるが、参加前に十分な確認をするいとまがなく、バンドの調整がうまくいかず、どうしても緩んでしまう(十数年ぶりに引っ張り出したので、使い方を忘れてしまった。)。おおいに反省するべき点である。

クルソン岩からの展望は、思ったより平凡でちょっと残念であったが、15時にテントに戻ると早めの夕食で、自分にとっては久しぶりに雪を溶かしての食事となり、昔を思い出して懐かしかった。思ったより冷え込みも少なく、シュラフに潜り込むと極めて快適。テントから出ると樹幹から覗く星々や三日月が煌めいて、寒さを忘れて見入ってしまう。

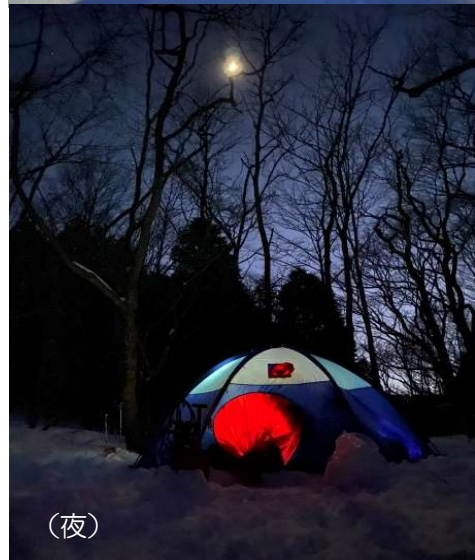
初日行程

4.2km 4時間 累積標高差 約600m

天気 晴れ・曇り 無風



(昼)



(夜)

初日のテントサイト



吉和冠山手前の登り



冠山頂上

1月9日（日）

朝食をとり、7時05分に出発。

冠山山頂までは、順調に登り、早くも7：50に到着。ところが、それから先の寂地山までが概ね平坦なコースながら、トレースがなかったこともあり、結構長く、厳しく感じた。もっとも、自分以外はどんどん進んでいく。やはり歳の差かなあとも思ったが、とりあえず、今日だけ本調子でなかったことにしておこう。いよいよ厳しくなった時、矢上さんがワカンを貸してくれてからは大分楽になった。苦しみながらも、10：30寂地山頂に到着。

寂地山は山口県最高峰ということと特異なその名称から、1度登って見たかったが、真冬に来るとは思わなかった。冠、寂地の両山頂ともあまり眺望はきかず、とりたてて見るべきものはなく、むしろ、途中の素朴な樹林帯の歩きが興味あるものに感じられた。寂地山からの帰路、福岡から来た労山のパーティーがテント設営中であつた。

昼頃から気温が上がり、冬なのに汗ばむほどとなった。

13時ちょっと前にテン場に帰り、てきばきとテント撤収して下山。下山はなかなか快調で14：26に登山口に着く。順調に高速を走って7時ごろに大分に帰り着いた。

2日目行程

距離 10.2km 7時間20分 登り 約400m 下り 約900m

天候 曇り 無風

<参加者> 安東 矢上 上野 橋本 佐藤

感想・反省点

- ・久しぶりの大人数での雪中露営で、2日間雪の中を歩いて楽しかった。ただし、雪質が重くて、歩きにくかったようにも思った。
- ・自分のスノーシュー準備の不備は、大いに反省すべきである。
- ・反省というよりも、驚いたことだが、コッヘルで雪を溶かして水を作っているときに、突然、ガーストープから炎が噴き出した。どうもストープに乗せたコッヘルの重量が重たく、コッヘルを回した際に、五徳が摩擦力により引きずられて回転したようである。

初めての経験であつたので、帰宅後、プリムスのストープに水を入れた鍋を乗せ、実験してみた。当然のことであるが、五徳の締め付けが緩いと鍋を回転させると五徳も緩む。また、鍋が重たいと五徳も回りやすい。（当たり前のこととて、実験するまでもないかもしれないが。）今回の炎上の原因が五徳の締め付けが緩かったせいかどうかは、検証できないが、ガーストープは確実に締め付けること、重いコッヘルに乗せたときは、五徳に乗せたまま回転させない（軽く持ち上げる）よう気を付けることを学んだ。

- ・比叡山登攀などの中級研修を終えて、自分には若干ハードルが高かったような気もするが、色々勉強になり、まことに有意義な研修であつた。「中級」ということで二の足を踏んでいる会員もおられるかもしれないが、何とかなると思うので、来年度はぜひ、多くの方が参加していただきたい。
- ・最後に、講師の安東支部長と受講生のみなさん、お世話になりました。

第8期登山教室（2）

津波戸山（岩稜体験）

2021年11月28日（日）

報告 会員11546 鹿島正隆

11月28日（日） 晴れ 第2回登山入門教室を津波戸山で実施した。当日は天候にも恵まれ稜線での展望も楽しめた。受講生は17名。支部会員11

名が参加。3班に別れ、第1班は展望コース。西尾根を登り東尾根を降りるコース。受講生4名。スタッフは4名。第2班は東尾根コース。東尾根を登り中央の谷を下るコース。受講生6名。スタッフ3名。第3班は、中央の谷を登り往路も中央を降りるコース。受講生7名。スタッフ4名であった。8時に津波戸山駐車場に集合し、班編制、コース説明の後、8時10分に出発。旧海蔵寺に立ち寄り、第2班は東尾根に取り付く。東尾根への登り上がりは急登で鎖が付いている。野仏は88番から逆にたどる。稜線に出ると眺めは良く、第1班が西尾根の左京の橋を渡っている姿も遠望できた。東尾根を登り上がった先の中央谷への下りもやや分かり難く急斜面で鎖が付いている。水月寺奥の院に立ち寄り、津波戸山山頂3等三角点へ。第3班と展望の良いところで昼食。第3班には登山の知識を得たいと参加した初心者も多く、ご高齢の方も多いということで、安全登山を念頭に、登山を楽しんだ。津波戸山は起伏に富み、岩稜を楽しめると共に、水月寺奥の院や弘法大師像、稜線には88ヶ所霊場ゆかりの野仏に会えるなど、歴史と自然の絶景を楽しめる山だ。参加者には、その魅力を十分に楽しんでいただけたと思う。下山は13時。約5時間の行程であった。下山後、安東支部長より安全登山と山の装備についての講義があった。次回は最終回。次回の案内と説明を行い解散した。



津波戸山を背景に



受講者とスタッフ集合写真



野仏と一緒に

第8期登山教室 (3)

久住山(冬山体験)

2022年1月16日(日)

報告 会員 16315 佐藤裕之

1月16日(日)

本来は、九重ヒュッテで前夜宿泊研修も予定していたが、オミクロン株の流行で、宿泊中止となったのは残念であった。

それでも、受講生予定者12人の欠席はなく、充実した研修となった。

予定の9時前には全員集合。支部長挨拶、簡単な注意・装備点検の後、牧ノ戸峠を出発（9：10ごろ）。数日前の積雪が見事に残り、美しい雪景色である。普段は、あまり歩きやすくはないセメントの階段が雪に埋もれて歩きやすい。扇ヶ鼻分岐の辺りまでは、風もなく良い登山日和であったが、北千里付近からガスが濃くなり、風も次第に強まった。遅れ気味の1人を除き、順調に歩みを進める。



久住山避難小屋前にて

避難小屋で昼食とするが、中には他のパーティーも多く、密を避けるために野外で食事をする者もいた。遅れたメンバー1人をスタッフにお任せして、本隊は久住山頂目指して11：35に小屋を出発。久住別れを過ぎると風はいよいよ強まり、最年少の駕籠六寿波ちゃん、山行継続を断念、賀籠六親子が撤退したのは残念であった。それでも、8人の受講生と支援するスタッフが寒さ強まる久住山頂に12：05（最終組）登頂成功。意気揚々と下山にかかる。

下山中に降雪となり、うっすらと新雪が積もり、午前中より、いっそう美しい銀世界となり、受講生も感嘆していた。

しかし、受講生の1人が足の調子思わしくなく、かなり辛そうである。支部長持参の甘草芍薬湯を処方したところ、歩けるようになった。備えあれば憂いなしである。

遅れた者もあったが、無事全員下山、支部長挨拶のあと、解散した。

【感想及び反省】

- 天候悪化したため、山頂まで登れるか、心配したが、大部分の受講生が山頂まで行けたのは良かった。当初25人の参加者のうちの12人と、元気なメンバーが残ったこともあるかもしれない。しかしながら、早い組と遅い組の間に45分ほどのタイム差があったので、これをどう対応すべきか、という課題が残る。
- 一部、装備に不十分な受講生も見られた。今後は、出発前に十分な装備点検・指導を行いたい。これは、今年は座学がなく、研修が行き届かなかったためかもしれない。
- トイレに困ったという人がいた。雪が積もっていて、途中で隠れて用を足そうとしたが、できなかったと。避難小屋に携帯トイレブースがあったので、それを事前に知らせておけばよかったが、リサーチ不足であった。
- これは、自分の場合だが、天気の良い間は受講生に配慮してきたつもりだが、強風・濃霧になると、次第に余裕がなくなり、配慮がおろそかになった。
- 冬山では単独行動厳禁である（夏もだけど冬はなおさら）ので、やむを得ず、単独で行動する場合は、必ず連絡して動くべきである。
- 来年は、座学を行い、より充実した研修を実施したい。
- 受講生からは、概ね好評のご連絡をいただいている。後日、入会案内を送りたい。
- 最後に協力いただいたスタッフの皆さん。お疲れさまでした。来年度もよろしくお願いいたします。

距離 8.5 km 約5時間30分 累積標高差655m（単純約455m）

天候 曇り やや強風 降雪有り

受講生 平野 柳井 山本 篠田夫妻 鷹野 三重野 橋本 嶋田 賀籠六一家

スタッフ 安東、鹿島、下川、阿南、中野（稔）、矢上、笠井、田所、丹生、久知良、佐藤（裕）

古道調査「始動」

井上リーダー始動宣言

2021年9月18日(土)

会員 14737 井上高明

〇はじめに

日本山岳会の創立120周年記念事業である「全国山岳古道調査」として、東九州支部は「六郷満山峯入りの道」の調査を、10・11・12月に各1回計3回実施している。調査概要を報告し、理解と協力をお願いするものである。

〇調査開始までの経緯

昨年の3月末までに各支部や個人から推薦のあった古道(200余り。当支部からは、六郷満山峯入りの道、肥後街道、日向街道・豊後街道の3つを推薦)から、一次選考として60の調査対象古道を本部で4月26日に選定し、この中に「六郷満山峯入りの道」が入った。それから文献調査等を始めると、峯入りの道は固定しておらず実施年によって異なることが判明した。そこで、詳細な記述と地図のある大分県教育委員会の「昭和55年度歴史の道調査報告書 峯入りの道」を基に調査することを担当役員で確認。

7月から10月にかけて両子寺及び関係自治体(国東市、豊後高田市、宇佐市、杵築市)の文化財担当課を支部長他と訪問し、調査の趣旨説明・情報収集及び協力お願いを行った。

支部報第94号で調査員の募集を周知し、9月18日に説明会を実施した。出席者10名。

〇進捗状況

1回目 10月9日(土) 18名 豊後高田市田福(市役所付近)～宇佐市両戒 約8km
段取り不足で少し混乱するも、3班に分かれ峯入りの出発地点から調査を開始する。一部で圃場整備や雑木の繁茂等で40年前と違うルートを通った。

2回目 11月21日(日) 19名 両戒～宇佐神宮～御許山(大元神社) 約12km

1回目の終了地点から3班に分かれて出発。宇佐神宮からの「おもと古道」は林道が出来て大きく変わっているが、可能な限り参考地図のルートを歩く。御許山～金丸は別途調査をすることとし、平山林道を通り、国道10号に下る。

3回目 12月18日(土) 18名 宇佐市江熊～来縄山～津波戸山鞍部～向野登山口 約8km
ほぼ山岳コースのため班分けはせず、鹿島リーダーのもと一団で歩く。ルートが分かり難いのでGPSを確認しながら慎重に進んだが、参考地図に疑問を覚える箇所は避けて歩いた。鹿島さんの下見があったので、ほぼ予定通りに調査を終えた。

〇今後の進め方

2回の調査実施結果により11月の役員会で課題等を報告後、12月及び1月の支部ルームで検討し、今後は次のとおり実施することにした。①調査は月に2回実施し、今年中に終了目途。雨期・夏季の6～8月は実施しない。②調査を3班制とし、未調査の約200kmを3分割する。各班のリーダーはA班佐藤裕之さん、B班鹿島正隆さん、C班阿南寿範さん。他にサブリーダーが各班に2名。調査案内は各リーダーから実施。A→B→C→A→B→C…の順。(※リーダーを含めメンバー全員が、全区間の調査に参加可能)③事務局が入手している資料を調査メンバーに配付。

〇お願い

本活動は調査・公開し古道の魅力を次世代に伝えることで様々な効果が期待されます。より良い報告書にするため、リーダー任せにせず、何のために歩くのかを考えて活動をお願いします。現在の調査メンバーは29名です。興味のある方は連絡ください。

個人投稿

ペンリレー・第43回

「仲間とともに」

笠井美世 準会員(A-0224)



櫻井さんから、ペンリレーのバトンを受け取りました。私は、娘が高校登山部に入って初めての県大会の日に夫と坊がつるを歩き、ミヤマキリシマをはじめ、初夏の花の美しさに魅せられて、九重連山通いを始めました。しかし、細尾根や岩場を見るだけでも尻込みしてしまうような高所恐怖症で、いつも不安を抱えて登山道を歩いていました。岩場に慣れたいと参加した山岳連盟の由布岳西峰の岩場で、講師が張ったフィックスロープに簡易ハーネスを付けて登ったことが、クライミングを始めるきっかけになりました。

ちょうどその頃、以前NHKの登山教室で一緒していた尾家さんに大分駅前ではったり再会しました。尾家さんは、東九州支部でトレーニングをしてアルプス登山を経験したことなどを話し入会を勧めてくださいました。私も登山の幅を広げたいと思いました。支部報で青年部の活動を知り、年齢オーバーでしたが参加が叶いました。読図、ロープワーク、アイゼンとピッケルを使った歩き方、アイゼンを装着しての岩場の登攀などの練習から、沢登りやアイスクライミング、冬山登攀、マルチピッチクライミングと思いもしていなかった世界が広がりました。講師の安東支部長から正しい技術を学べたことや、仲間と切磋琢磨して技術を高め、ロープでつながり協力して山に登る楽しさを経験させていただいています。

数年前より両親の遠距離介護が始まり心身共に辛い時期もありましたが、「介護が始まっても山はやめちゃだめよ」とケアマネをしていた先輩の一言を思い出し、何とか乗り越えてきた気がします。これからは月例山行にも参加が叶いそうです。

今年度からは役員会のメンバーになりました。登山教室にもスタッフとして参加させていただいています。初心に帰り、今までお世話になってきた方々への感謝の気持ちも込めて、微力ですが組織運営のお手伝いができればと思っています。よろしくお願いします。

次回のペンリレーは、佐藤秀二会員（会員13141）にお願いしました。お楽しみに！

よい安全な登山のために No.43

『冬 山』

安東桂三 (9193)

2021 年末から 2022 年にかけて、槍ヶ岳に行こうと計画していた。

かつて、山岳会とは、目標を持ち、その達成のためにトレーニングをするのが普通であった。夏には、穂高岳や劔岳の岩場に行こう、冬には、北アルプスのどこかに行こうと決めたなら、夏前には、クライミングシューズを履いて、近郊の岩場でトレーニングを行い、夏の本番で成果を上げる。また、秋になったなら、アイゼンを履いて、岩を登り、年末年始の北アルプスの山で成果を上げる。この繰り返して、登攀能力を上げ、数年に一度くらいは、ヨーロッパやヒマラヤに出かける。

これが、昭和時代までの山岳会活動であった。いつの間にか、この活動はなくなり、また、若者の山岳会離れ・若者の組織離れ・未組織登山者の増加・遭難件数の増加・年間 300 名ほどの方が山で亡くなる・などのおかしな現象が続くようになった。

情報化・個人主義の波により、登山人口は多いものの、登山技術レベルの低下が起きていると思う。情報化により、多くの山の状況が簡単に得られ、それを頼りに山に登る、決して山は簡単になったわけではない。装備が良くなっても、それを使う人間の能力が上がったわけではない。天気の情報が見られるようになって、天気が優しくなったわけではない。配信動画などで、登攀状況がわかっても、それは配信した人の登攀で、動画を見た人が登れると勘違いする。簡単に得られる技術は、簡単に忘れてしまう。努力して、その努力で得られた技術は忘れることなく、身に付いていく。

年末年始の槍ヶ岳のためのトレーニングが充分に出来なかったため、どうするかとメンバーと相談した。

トレーニング不足で登れないのを覚悟して、行くか（次年度は確実に登るという意味で）。トレーニング不足なので、中止するか。少しレベルを下げて、ハヶ岳に行くか。の三案を検討し、ハヶ岳の阿弥陀岳南稜に行き、登攀能力の向上、積雪期生活技術の獲得をしようと計画した。

年末の天候は、不安定であった。28 日の夜、大分を車で出発したが、悪天候が予想されるようになった。5名のメンバーは、誰も「このまま行けば、阿弥陀岳の南稜は登れない」のではないかとはいわなかった。内心は登れないのではと、全員が思っていたが。深夜の新名神高速道の北宝塚サービスエリアにて、相談をし、目的変更を決めた。阿弥陀岳南稜を改め、堂満岳堂満 1 ルンゼ中央稜(滋賀県)と変更したが、地図やルート図もなく、スマホなどの他人のデータと、スマホで見れる地図のみが、得られる情報だった。

深夜の 1 時 30 分に積雪のある登山口に到着し、幕営。簡単な夜食と少しのアルコールで入眠。

翌 29 日、朝食後、8 時 30 分出発。積雪のある登山道を歩き、取りつき 10 時 19 分、登攀装備を装着。F1 に 10 時 45 分、先行パーティに追いつき、「中央稜はどっち？」と尋ねると、あちらと指で示す。それで、その方向に登るが、実はそれは中央稜の支稜だった。途中で中央稜に戻り、それを登り上がり、ロープをザックに納めたのが、15 時頃。そのまま尾根を登り上がり、堂満岳の山頂に到着したのが、日没の 17 時だった。

堂満岳には、一般登山者のトレースもなく、暗くなった尾根を、ルートを探しながらラッセルし、金糞峠に出て、トレースのある登山道を歩いて、ベースキャンプに 20 時 26 分到着した。テントにて反省会、夕食後、爆睡。

多くの反省を得たが、参加者は、多くの勉強をした。

（もし、書くことが出来れば、他の機会に詳細を報告したい）



堂満岳山頂に向かうパーティ



下山途中！

三角点と山城探検シリーズ(第31回)

「地藏岳が見た落ちゆく 伊東義祐」

(会友11) 安部可人

およそ10数年前、西・石川・林・安部は「開聞岳」を登り、その夜はえびの高原でキャンプ。翌日西・安部は「白鳥山」をめぐり、石川・林は韓国岳～高千穂を縦走して、午後人吉から219号線(米良街道)のドライブは15番を北折して尾八重地区にたどり着いた。桜咲く小学校校庭で野営。翌日の地藏岳標高点1089は目前に見えて、東面が急な崖、西面がなだらかな山容がひときわ目立ちます。きつい。

さて、440年前地藏岳は何を見たであろうか。九州の桶狭間といわれる「木崎原の戦」で島津義弘に敗北した日向の雄伊東義祐は滅亡に向かいます。同盟関係の宗麟を頼り、義祐主従一族160名は「佐土原城」(国史跡写真)を出て、狭い「穂北城」で一泊して、城主長倉の長子の案内で険しい米良山中を尾八重へ向かい、12月25日高千穂の河内村にたどり着いた。極寒・追いはぎ・病気・自殺、16日間は信じがたき苦難の山旅だ。尾八重からは～美郷～神門～諸塚村～六峰街道～高千穂～河内～崩野峠(三秀台)～五ヶ所～九重野～玉来～府内・臼杵着でしょうか、半数の80名が生き残り、後世秀吉の家臣となった義祐三男・祐兵が「飢肥城」を回復する。幼い伊東マンショもいた。義祐は野津院300町でしばらく生きた。(説明)大友家滅亡の種がまかれた。「日向の半分さしあげますから」と義祐、日向遠征猛反対の家臣、キリスト天国創設の夢、宗麟は終焉への道を選んだ。伊東義祐一族は身の危険、四国から播磨国へと放浪、縁あって祐兵が中国討伐の羽柴秀吉の知遇を得て30人扶持57000石、飢肥城を回復して明治まで続いた。日向・薩摩・大隅三州太守誇り高き義祐の病体は船頭から浜に投げ捨てられた、享年73才。*家臣が裏切り海岸沿いの道は閉ざされていた。(松原の取付き地点)219号線の岩井谷トンネル先百メートルに「伊東道案内板・豊後落ちの道」を遂に発見、大成果だ。離合は恐怖の軽トラ道が稜線に緩やかな勾配で上がる。当時を偲び500m歩いて引き返した(写真)。松原～経塚～小八重～岩井谷

小学校跡〜尾八重へ。そこまでは地元がウオーキング大会を開催する、トライしたい。

(登山) 青雲橋から五ヶ瀬川を渡り「中崎城」、宇目大規模林道は真弓岳1073を通過して、塚原発電所から清水岳三等1204.5を四駆登山、百済の里「神門」で車中泊、この林道唯一見晴らしの峠で空野山1126、8が存在感あり、登りたい、豪雨では下りたくない怖い道路から地藏岳が見えてくる。

(安部蛇足) 伊東義祐も又大内義隆とおなじく晩年は京文化に溺れ、諫言を聞かず、祭りごとを疎かにした。同じくキリストに熱中した宗麟も豊後国を滅ぼした。H29年79歳実行

「瓢箪淵」「尾八重」「神門」「清水岳」「諸塚」「諸塚山」「三田井」長距離ドライブも楽しい。神門・百済の里観光にどうぞ



伊東道



国史跡・佐土原城

私の無名山ガイドブック (第83回)

宇藤木(348.6m)・万地(409.6m)

(会員 10912) 飯田勝之

前回の続きで佐伯市井崎川の源流域のピークと、井崎川と野津川の分水嶺上の小ピークを紹介しよう。

宇藤木

碁盤が岳からニガキ台へと、臼杵川の源流を囲むよう連なる稜線から、南に派生した支稜線の端にあたり、その先は井崎川に落ち込んでいる。井崎川右岸の急斜面は照葉樹の林が多いが、稜線近くなるとスギ、ヒノキの植林地となる。三角点付近は、稜線の東はヒノキ成木林、西はヒノキの幼木林である。

佐伯から国道10号線の中ノ谷トンネルへ上り始める手前の三差路を右に、中ノ谷橋を渡って井崎川源流の谷へ沿って入っていくと、宇藤木の最奥の神社の下に墓地があり、背後が照葉樹林となっている。ここが登り口に良い。墓地の横を通り、照葉樹の林に入って、急な稜線を直登していく。始めた林床にはカシヤシイの落ち葉だけだが、20分ほど登るとウラジロが現れるので、歩きやすいところを選んで登っていく。

やや傾斜が緩くなったら右側がヒノキ林に変わる。その植生境の直登を続けると約20分で主稜線に着く。ヒノキの稜線を右にとり、わずかな登りで平らな稜線上に達し、その一番高い地点から西に8mほど下った、高度が1.5mほど低い斜面の、カヤの影に4等三角点がある。そこは稜線の途中で、さらにヒノキ林と自然林の境の緩い登りを、心地よい稜線歩きで進んでいくと、20分余りで407mの標高点に達することができ、井崎川と臼杵川の源流域の山並みを眺めることができる。

地形図：25000分の1：津久見

参考タイム：

宇藤木→40分→主稜線→10分→宇藤木三角点→20分→407m標高点

万地

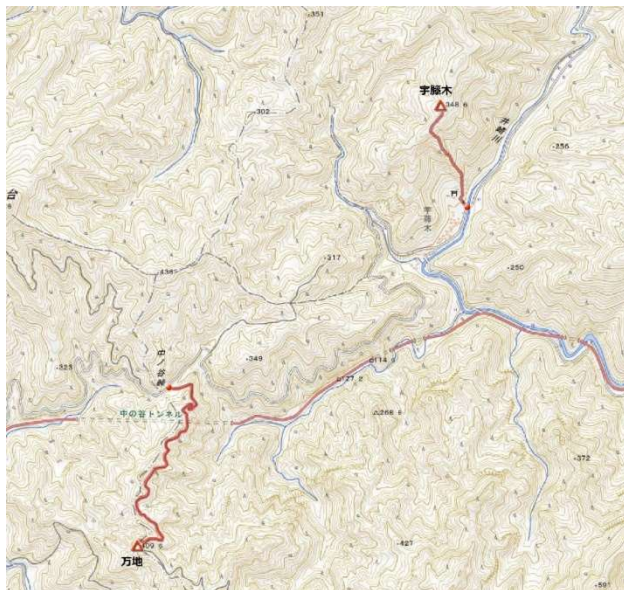
野津川と井崎川との分水嶺をなす中ノ谷峠から南に連なり、椿山の稜線に至る、稜線の中間の小ピークである。付近一帯はスギ、ヒノキの造林地であるが、野津川の源流域と井崎川の源流域を見渡せるので3等三角点が置かれている。

ここに至るには旧国道10号線の中ノ谷峠が入口になる。野津町割後場の、旧中ノ谷有料道路料金徴収所の手前から左に入る旧国道を入ると3kmほどで峠に着き、峠のやや佐伯市側に行ったところに南に分岐する林道がある。この林道は途中までは舗装されているが荒れているのでここから歩くのが良い。稜線に沿って曲がりくねりながら少しずつ登っていく。峠から約2.5km、約45分で道が大きく西にカーブして、その少し先で今度は大きく南東にカーブする地点がある。そのカーブ地点から右手の小さな崖をよじ登り、ヒノキの植林地の急斜面を直登すると、鹿避けネットが張られた稜線に着く。ネットの向うに出て、わずか稜線を伝うと。その尾根が直角に曲がった角のネットの際に三角点がある。野津川源流域の山並みが遠くまで望まれる。

地形図：25000分の1：植松

参考タイム：

中ノ谷峠→45分→とり付き地点→7分→万地三角点



宇藤木と万地の位置

個人山行 報告

日本百名山 紅葉の旅

報告 若月美智子(会員 15735)

令和3年10月5日～10日

私がパートナーの今川と遠征をする時は、だいたい車で出かける。何故ならば彼は運転が大好きなのだ。足を捻挫して、おまけに坐骨神経痛で山に登れなくてもいいから山旅に付き合ってくれる。そこで今回も友達を誘った。だがしかし出発の前日に宮原さんは、踝辺りを骨折してしまい入院となり、神田美代子さんと今川と私の3人で10月5日出発した。

10月6日(水) 天城山

一晩中車を走らせて朝8時、標高1000mの伊豆高原天城高原ゴルフ場横の駐車場より神田さんと私は歩き始める。人がいなくて清々しい朝だ。ヒメシャラの大樹に見とれながら四辻の分岐を左に巻く。高原帯ならではの植生が九州のそれとは全く違っていて目を楽しませ



てくれる。万次郎岳

(1299m)で伊豆の山々

万三郎頂上

を望みながら一休み、それからブナの原生林や石楠花、馬酔木の中を進む。花の頃はきっと多くの人出だろう。万三郎岳(1405.3m)山頂は独り占めだった。私はお決まりの天城越えを口ずさみながら、下山は周回コースで時計回り岩混じりの細い荒れたルートをアップダウンしながら歩く。その後まだ時間があったのでお椀をふせたようなシルエットが特徴的な大室山へも寄った。

10月7日(木) 移動日

10月8日(金) 安達太良山

朝宿泊した旅館からすぐの西吾妻山ロープウェイに乗ろうとしたら強風のため運行の見通しが立たず、ただ待っているのもジレンマなので明日予定してい

た安達太良山へ変更、移動する。お抱え運転手がいるので心強い。

11時安達太良山スキー場から徒歩で登山開始する。こちらロープウェイは運休で、風は高度が上がるにつれて段々と強くなる。それでもこの山は、平日にもかかわらず約2000台ある駐車スペースがいっぱいになっていた。その理由はすぐに解った。紅葉がスバラシイのだ。多くの人が行き交う中、細い道に入るともうそこは自分だけの紅葉を堪能出来、ここに来れた幸せをかみしめながら歩く。山頂付近はガスガスと相変わらずの強風で何も見えなかったが、ピークの乳首山（1700m）へ梯子を上がって行き、小さな祠に手を合わせた。

14時30分。薬師岳のところで今川からロープウェイが運行になったのでそれに乗り降りるとの指示あり従う。ほんの10分の空中遊覧で山麓に着き、今晚の宿に向かう。

10月9日（土） 西吾妻山

今朝は、無事ロープウェイが運行している情報を得て湯元駅天元台口へ向かう。ロープウェイと3つのリフトを乗り継いで標高1800mまで一気に上がる。ここも昨日同様東北ならではの紅葉が丁度見頃で、ルンルン登山開始。だが足場はズルズルで結構ぬかるんでいる。みごとなオオシラビソを横目に高層湿原を抜け、天狗岩でランチ。西吾妻山山頂（2035m）は拍子抜けするような通り道にあった。下山もズルズルと格闘しながら、リフトに乗る頃はガスっていて約40分間まっ白い世界の中に浮かんでいた。リフト券に付いていた芋煮が冷えた身体に染み渡り美味しかった。

10月10日（日） 武尊山

吾妻山から移動350km 群馬県北部に位置する。武尊神社から山頂を回り剣ヶ峰の周回コース。急遽変更した山だったのでろくに調べもせず選んだのだが、これがなかなかどうしてハードな登山となった。鎖場やらスリリングな岩場やらの連続で、足元はここもぬかっていて濡れた落ち葉、石、木の根

っこ等が滑る滑る。結局青空が見えたのも、そうとは知らず最初の方だけで基本ガスガス状態の山頂沖武尊（2158m）、最高峰剣ヶ峰（2020m）視界は効かなかった。下山はベテランの神田さんがリードしてくれて時々しりもちつきつき、ヘトヘトで無事今川が待つ車に到着。彼も捻挫の足が少し良くなったので、私達を待つ7時間中3時間山歩きが出来たと報告あり。

それから後もう一つ予定していたのだが、草津白根山は、今尚火山活動のため駐車場周囲にロープを張り巡らせていて別の登山口が分からずあっさり諦めて帰ることにした。



安達太良山頂上



西吾妻山山頂

大分から往復走行距離3500kmドライバー兼マネージャーを務めてくれた今川に大変感謝して最後の夜はワインで乾杯をした。

<参加者>

今川三弘、神田美代子、若月美智子



武尊山頂上

個人山行 こぎこぎ倶楽部

万年山こうもり尾根

報告 飯田勝之(会員 10912)
令和3年9月11日(土)

万年山こうもり尾根！知る人ぞ知るマイナーなクラシックルートである。北山田の方から見たら、こうもりが羽を広げたその片方の羽に似ているからついた尾根の名前だと聞いている。筆者は昔(記録を見ると33年前)唐杉から稚児落しルートで伐株山に登って針の耳を下った後、この尾根を通して万年山山頂に至り、鼻ぐり岩を経て茶屋場跡から小田に下って唐杉まで約9時間かけて一周山行をしたことがあるが、その1週間前に計画の下調べでこの尾根を歩いたのが最初だ。

古い資料を頼りに、伐株山との鞍部から尾根へのとりつきを探し、やっとそれとわかる道を分け入って稜線に登ったが、稜線はわりとはっきりした踏み跡があった。その数年後に小田から逆コースで一周したこともあるが、その時には尾根から下る道はまったく不明で、猛烈なヤブヲ漕いで車道に出た。

さらに10年ほど前にこの道を登ったが、その時には平成14年万年山登山道新設工事の標識があり、立派な遊歩道が稜線まで作られていた。しかしルートは変えられていて、猛烈な急斜面に木の階段が作られて、補助ロープも張られていた。このたび、こぎこぎ倶楽部の皆さんにぜひこのルートを歩いてみて欲しいと思って案内した。

9月11日(土)、玖珠の家畜市場前に集合したのはメンバー16名だ。まずは車4台を下山する万年山牧場ゲート前の広場にデポに行く。他のメンバーは伐株山との鞍部の登山口に移動して待つ。

8時45分、20年前に造られてもうすっかり古くなった遊歩道を入山。スギ林の中を緩く登っていくと横木の階段で作られた古い遊歩道の登りとなり、しばらくジグザグ登りした後、ほとんど直登の急な登りで、横にあるトラロープなどを頼りによじ登っていく。団体の登りなので時間がかかり、みんなが尾根に登りついたのは9時40分だった。

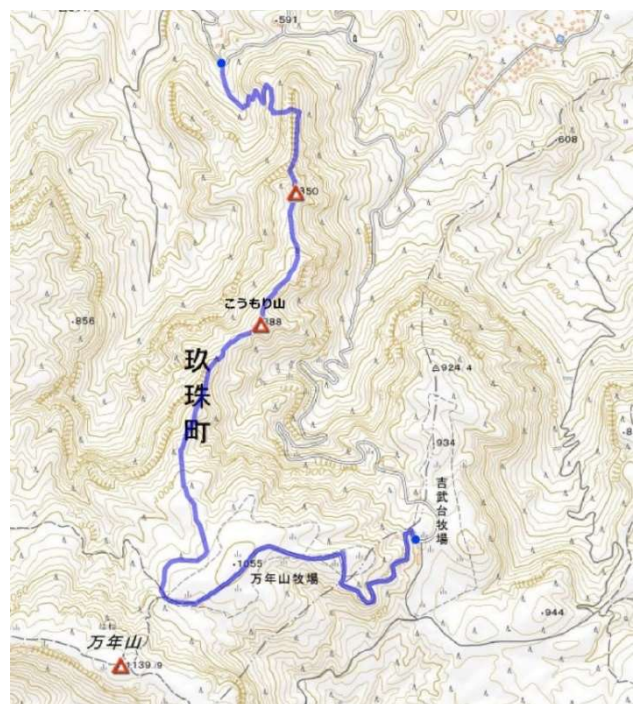
あとは変化に富んだ稜線歩きが始まる。岩稜や痩せ尾根のアップダウン、アセビやツツジのヤブ漕ぎなど。尾根に出て1時間ほど登ると850mの標高

点ピークについた。美しい自然林の中の山頂で、古い木製の壊れかけたベンチが二つある。この尾根はほとんど木立の中で展望もなく上の方は植林地が多いので、ここで一休みして集合写真を撮る。

少し下ったあと、緩い長い登りは美しい林の中の稜線漫步だ。やがてスギ林の中の登りとなり、まもなく鈍頂に達した。888mのピークで通称こうもり山と呼んでいる所だ。時刻が11時15分、やや早いがここでランチタイムとした。

11時40分再出発、ここから先はスギやヒノキの植林地の中の登りだ。薄暗い林の中の単調な登りが続き、やがて緩斜面をトラバース気味に進んで小谷を越えて平らな林の中を少し行くと広い明るい林道に出た。これを右に行けばミヤマキリシマの大群落があるお花畑で、左にちょっと行くと万年山山頂直下の階段道の手前の三差路だ。

時刻は12時45分で、まだ十分早いけど誰も山頂に行こうという者がいない。天気はいつの間にか、今にも降り出しそうな空模様となっている。みんな急いで牧野の中のコンクリート舗装の道を牧場ゲートへと向かって行く。13時20分、万年山牧場のゲート到着。朝置いた4台の車に分乗して出発地点に戻って解散。このルートの面白さはこうもり山までの変化に富んだ道だ。



こうもり尾根ルート位置



Mt 850. 0mのピークで！

<参加者>

飯田、鹿島、中野(穂)、桜井、宮原、若月、大渡、神田、久知良、遠江、柳瀬、清水(道)、中野(梨)、飛高、甲斐

個人山行 こぎこぎ倶楽部報告

おそぼやま
御側山・上塚尾など

報告 飯田勝之(会員 10912)
令和3年10月17日(日)

令和2年度から始めている支部の月例山行のテーマ「県境稜線を歩く」では11月の祖母山まで辿っているが、その間には踏査を飛ばした部分がある。それらの部分をこのクラブで歩き足してみようという試みの第1回目が今回の、津江の矢部越から猿駆山手前の稜線歩きで、全長6km近いルートである。私は途中にある2か所の三角点へはスーパー林道から登ったことがあるが、全長を歩いた経験はなく、昨今の自分の体力では歩き通せるかいささか自信がないので、途中からのエスケープルートを頭に入れて計画した。

参加予定者18名のうち11名は前日午後から椿ヶ鼻でテント泊して、秋の一夜の野営を楽しむ計画であったが、あいにく前日は朝から雨で、椿ヶ鼻の高台は荒天の予報なので中止となった。

10月17日(日)午前8時、参加予定者全員が椿ヶ鼻に集合。下山予定地、昨年2月の猿駆山へのル

ート入山地点に車4台をデポするために移動、さらにもう一台をエスケープ用に中間地点に置いて、9時40分にスーパー林道の矢部越分岐から出発。先頭は今日のリーダー役の桜井さんだ。

県境の林道から少し入ったところから稜線にとりついて、後はずっと県境歩きだ。少し行くと広い斜面の山腹登りとなり、急斜面を登りついたところは御側山から東にのびる稜線上で、今日のルートの最高地点である1190m標高点のすぐ西の地点だ。ここから西に稜線歩きは疎林の中の快適な稜線ルートだ。ブナやコナラ、カエデなどの疎林の林床は、数年前に三角点踏査で登った時にはかなり深いスズタケが覆っていたが、今はすっかり枯れて、その枯れた残骸が残るのみで非常に歩きやすくなっている。緩いアップダウンのあと緩く登りを詰めたところが御側山だ。11時5分着、狭い山頂部の真ん中に4等三角点(1077.1m)があった。



御側山三角点にて

集合写真を撮って出発。ルートはここからほぼ直角に南に稜線を辿る。緩く下っていくと広い稜線となり、まっすぐ少し行ったところで方向を間違えたことに気づき、左に軌道修正する。灌木の自然林が終わるとヒノキやスギの植林地となる。緩いアップダウンが次々とやってくる。

朝ごはんが早かったので空腹を覚えて、リーダーの昼食休憩の声を待つが、おかまいなしにどんどん先へ行く。そして11時40分過ぎ、995mの標高点でやっと休憩の声。待ちに待ったランチタイムだ。

今日の全コースのまだ半分にも達していない。エスケープ用の車はその地点から少し行った稜線の鞍部の直下にある。桜井リーダーと相談したら上塚尾

の三角点まで行って、先に行くか林道へ下るか判断しようという。

12時5分過ぎ再出発。薄暗いスギ、ヒノキの林の中を右に左に緩く折れながら、単調で退屈なアップダウンが再び始まる。かなり急な斜面を、足元に注意しながら下ると記憶に残っている小鞍部に着いた。東からわずかにそれとわかる踏み跡道が登ってきている。数年前に上塚尾の三角点を踏査した時に登ってきたルートだ。そこからやや急な斜面を登り詰めたところが上塚尾の三角点(956.6m)、13時20分着だ。

ここでも集合写真を撮って、さてリーダーは？「先へ行く」という。心をふるってついていく。地図を見ればそこから先はさほどきついアップダウンはなさそう。40分余り行くと緩い下りの向こうに高いピークが見えていた。あそこを登ればすぐ下に作業道が我々を待っている。そう思って最後の力を振り絞って緩く登り返していく。そして14時20分過ぎ、鈍頂についたら先頭が丹生さんに代わって、さっさと稜線から下り始めた。まっすぐ行けば前に歩いた猿駆山への道だ。

少し下ると荒れた作業道で、ジグザグに少し下ると明るい林道に出た。あとはのんびり林道下りだが、記憶にある距離よりもずいぶん長く感じられる。疲労感がそう思わせるのだろう。14時50分、車の待っているスーパー林道に下山。前半のペースでは大分遅い下山と思っていたが、予想より早く下山できた。15時20分、朝の出発地点に戻って解散した。

<参加者>

飯田、鹿島、中野(稔)、櫻井、若月、丹生、大渡、神田、久知良、平原(健)、遠江、清水(道)、清水(久)、平原(瑞)、中野(梨)、小谷、飛高、甲斐

個人山行 こぎこぎ倶楽部報告

倉木山～烏嶽縦走

報告 賀来和子(会友 183)
令和3年11月7日(日)

今回のこぎこぎ倶楽部の山行は、豊後大野市緒方町の倉木山から烏嶽の縦走コースです。烏嶽は前の大分百山だ。11月7日(日)午前7時に緒方町の

「道の駅原尻の滝」前に集合で、中九州道を走って現地に定刻前に到着しました。

今日の参加者は16名、全員揃ったところで今日の予定の説明を聞いて、車11台を連ねてまずは烏嶽登山口の烏嶽トンネル東口に移動。ここへ下山時に回収の車を置いて4台の車に分乗して倉木山の登山口に全員移動です。

今日のリーダー役は鹿島さん、まずは倉木山めざして9時過ぎに出発しました。周りの山々の紅葉もちょうど見頃で、随所で皆写真を撮りながら登っていきます。登山口で、途中の「大石の檜山」の風情を見てほしいと言われていましたが、私は気付かずに見過ごしてしまい、後で聞いて残念でした。いつかぜひ見たいものです。

注 この大石の檜山は竹田岡藩三代目藩主中川久清公(入山公:大船山中腹に廟がある)が儒学者熊沢蕃山を招聘して藩の産業振興をはかった時に、その助言により鹿児島より赤檜の苗を取り寄せ植林を行ったといわれる。現在樹齢400年の赤檜の巨木が繁っており、ほとんど原生林に近い林相をなしている。今日でいう水源涵養林の育成が目的であったが、一説には洋式軍備に余念のなかった久清公が固い檜の木を鉄砲の台尻にするために植えさせたとも言う。

スギの木立の急登を抜け、起伏にとんだ稜線を登ったら倉木山到着です。10時20分でした。周りにはヒノキの植林地です。そこで集合写真を撮影し、烏嶽に向かって出発します。



倉木山山頂にて

植林地の中の急斜面を下ると広い稜線歩きとなり、何度か登ったり下ったりしながら、足場の悪い岩場を登って少し行ったら宮尾という4等三角点のある所に着きました。12時ちょっと過ぎで、ここで昼食・休憩です。

11時30分、次の烏嶽を目指します。結構な岩場があり見晴らしのいい場所から次に目指す烏嶽が

見えます。遠くは阿蘇、九重、由布などが快晴の中見え感動です。足場の悪い急斜面を下り、細い稜線のアップダウンや危ない岩場歩きが続きます。途中の真っ赤な紅葉が陽に映えて一層きれいです。



烏嶽山頂にて

13時30分、烏嶽の頂上に到着です。3等三角点がありました。岩の上から遠く阿蘇や九重山、由布岳、近くには豊後大野の山並みが見渡せます。三角点の前で集合写真を撮影し、下山開始。急斜面の下りが続き足元に気を配りながらの下山です。最後は荒れた林道(作業道)を下って広い林道にでました。14時30分、出発前に車を置いた烏嶽登山口に到着。そこから倉木山の登山口に全員移動して解散しました。

今回は天気に恵まれ良い山行になりました。昼食の時には蜂を退治していただき有難うございました。倉木山での香りの正体は謎のままです。毎回初めての山ばかりで次回の山も楽しみにしています。

<参加者>

阿南、飯田、鹿島、中野(穂)、桜井、丹生、大渡、平原(健)、柳瀬、賀来、古谷(耕)、平原(瑞)、中野(梨)、飛高、諸田

個人山行 こぎこぎ倶楽部

**小豆穴・金剛野峠・掛橋
県境尾根歩き
報告 古谷耕造(会友191)
令和3年12月19日(日)**

冬期の早朝出発と遠距離運転が不安なので 今日は中野さんの車に同乗させてもらう事とした。いつも通り余裕をもって自宅を出ると雪がちらちら舞っている。日田の奥地は雪深い所だ。そう思うと心

配になりアイゼンを取りに引き返した。待ち合わせ場所まで急ぎ、そこから、高速道路の光吉ICから日田ICへ乗り、集合場所のタ(いっせき)に着いた。そこで点呼をして、飯田さんより、雪がちらちら降る中、今日はどうしようかと長いロングコースに思案しながら「予定の全ルートは鶴河内から県境伝いに宝珠山駅まで7.5kmほどあり、雪の後でもあり一日では無理と思うが、とりあえず試してみるか」のGOサインが出た。

まず途中のエスケーブルートの下山予定の場所に車を2台置いて、福岡県境の鶴河内川の登山口に着いた。出発に備えて皆が雨カッパを着るのを見て、しまった! 雨具を忘れたことに気がついた。アイゼンではなくて雨具を持ってこないといけなかった。仕方なくヤッケを着て、9時5分に登山開始した。

今日の先導者は 鹿島、丹生、甲斐氏だ。出発していきなりヤブコギにあった。取り付け点の手前で古い民家(空き家)があり さてここは私道かな? 鉄柵があり足場が悪くてなかなか、山へ入れない。周りにまわって、やぶこぎしながら、県境尾根道へ出て、更に杉の木が林立する急登を登り、やがて最初のピーク474.1mの四等三角点小豆穴についた。そこで休憩をして皆で集合写真を撮った。



小豆穴4等三角点にて

それから、ずるずる滑る急坂を下り金剛野峠と言われるトンネルの上についた。トンネルの穴は見えないが下に道路が少し見えた。少し登ると小ピークで、ここで安部先生が熊のような大声で「ウァーオ」と登場した。青いビニールテープを巻いた自作の杖を持ち、皆に挨拶をして嵐のように去っていった。それから30m、50mのアップダウンの尾根道を繰り返して見晴らしのいい尾根、稜線に出た。ネット越しに釈迦ヶ岳、御前岳、岳減鬼山が見えた。

風は冷たいが、天気も回復し、雲の切れ間から太陽がさし、この時期らしい冬の心地良さだ。そこから二つ目の小ピークでランチタイムになり昼食を食べた。昼食が終わり、県境の杭をみつけながら、地図とGPSをみて歩く。途中大きな岩盤が立ち上がり、悪戦苦闘しながらこれを迂回して稜線をいくと、438.7mの四等三角点「掛橋」に着いた。休憩と皆で集合写真を撮り、県境の杭をみて下山、ズルズル滑る登山道、急な下り坂だ。やがて又岩盤があり足元が悪くて 飯田さんの三点支持確保の指示がありこの難所を通過した。

地図とGPSを頼りに進むが、気が付くと尾根を一つ間違えていた。ついつい歩きやすい方に歩いてしまったようだ。一旦鞍部へ下り進行方向に向かって急登の谷を越え、右の尾根に登り返して軌道修正した。当初の予定では宝珠山駅までだったが、古い峠道のある鞍部に着いたのが午後1時40分で、宝珠山駅までの半分ほどの所だ。途中のエスケープ予定の車道に最短のピークまで登って下山を開始。スギ林の急斜面を下って車道に出て、車を置いている所で終了とした。

本日の集合、解散場所「一タ」は日田大鶴地区で、2017年九州北部集中豪雨により大肥川が氾濫し莫大な水害を被った場所だった。復旧工事も進んでおり河川道路も立派に整備されていた。その道路脇の「一タ」の四等三角点を眺めて点呼をとり、飯田さんより「本日の山行は、地図上では読みにくい尾根やアップダウンなどもあり、思ったより厳しいルートで時間も予想以上に費やしたが、楽しい山行ができました」とあいさつがあり解散となった。本日は私には難しかったが参加出来た事に感謝しお礼申し上げます。ありがとうございました。



掛橋三角点にて

<参加者>

飯田、鹿島、中野^(稔)、宮原、若月、丹生、大渡、
神田、久知良、平原^(健)、安部、清水^(道)、清水^(次)、平
原^(瑞)、中野^(梨)、飛高、諸田、甲斐、吉田

大分百山完登！

「酒呑天童子山」1,180.7m

報告 (会友240) 古谷あい子
令和3年10月30日(土)

あっちゃあ〜!! やってしまったあー

99座目の中摩殿畑山に登った次の日、アクシデント発生です。

肋骨を2本折ってしまいました。5名一緒に完登する日は、10月30日と決まっています。

あと一か月半。果たして登れるのか・・・不安な日々が続きました。

さて、私の登山歴は意外と長いのですが、百山には興味がなく 山好きの主人に時々ついて行く程度でした。それが霊山水曜登山、日本山岳会東九州支部と関わりが出来て、特に去年「新大分百山」の本を頂いて 百山への意欲が湧いてきました。

丁度その頃、境さん百山挑戦中で私も便乗しました。何せ登山歴の長い私は 多分60座位は登っているだろうと思っていたんですが、きちんと数えたら46座! あれ半分もいってないんだなあ〜

でも大丈夫。私には力強い専属のサポーターがついています。私が挑戦への意欲を示したとたん何とサポーターの方に火つき 次から次へ予定を組みます。「おれの言う通りにせんと 後は知らんぞ!」生活の節々にこの言葉が飛ぶので 従うより仕方ありません。

中でも岩場の苦手な私を「熊群山」の岩場をどうやって登らせるかに ずいぶん悩んだようです。

そこで津波戸山の岩場で特訓を受けました。三点確保とか、下りは岩に体をくっつけないで三点確保して岩から体を離して 足の置き場を確かめる等々。おかげで岩場(くさり場)は合格点を貰うまでになり その後の熊群山も楽々登れました。

二人で登った山もたくさんありますが やはり大勢で登ると楽しいです。

百山の中で 好きな山は 由布岳、涌蓋山。 長者原から九重連山を眺めるのも大好きです。

これからも怪我をしないように もっともっと楽しみたいと思います。

百座目の酒呑童子山はろっ骨バンドを巻いて無事登る事が出来ました。2021年10月30日。

いろいろとお世話してくれた加藤前支部長、面倒をみてくれた主人に感謝しています。

たくさんの方に祝福して頂き、とても幸せでした。

本当にありがとうございました。

そして私と一緒に完登してくれた深草さん、飛高さん、平原ご夫妻ありがとうございました。

支部からの報告(会務報告)

支部会議報告

第5回役員会

11月29日(木) 大分市西部公民館

1. 古道調査について
2. 第8期登山入門教室について
3. 忘年会・忘年登山会について
4. その他

第6回役員会

1月12日(水) 大分市西部公民館

1. 古道調査について
2. 第8期登山入門教室について
3. 中級登山講習会について
4. 令和4年度事業計画について
5. その他

支部のルームについて開催状況

12月3日(金) 大分市西部公民館 出席者 12名

1月7日(金) 大分市西部公民館 出席者 11名

支部ルーム開催予定

2月4日(金) 大分市西部公民館 18:00~

3月4日(金) 大分市西部公民館 18:00~

4月1日(金) 大分市西部公民館 18:00~

お知らせ

新入支部会員紹介 (令和3年4月以降)

会友

(会友番号 253) 3年11月 入会
上野展子

月例山行のご案内

2月月例山行：米神山(475.0m)

「新大分百山に新たに選定された山に登る」

日 時……2月13日(日)

出 発……2月13日(日) 午前9時

集合場所……(現地登山口集合)

参加申し込み期限・・2月7日(月)まで

担当リーダー・・大渡崇夫

参加申し込み・・(携帯) 090-8919-3876

Email oahans2000@gmail.com

※地図 1/25000 立石

3月月例山行：釣鐘山(852.0m)

「新大分百山に新たに選定された山に登る」

日 時……3月13日(日)

出 発……3月13日(日)

集合場所……山国道の駅 午前8時集合

参加申し込み期限・・3月7日(月)まで

担当リーダー・・中野稔

参加申し込み・・(携帯) 090-2712-5225

Email zermatt1111nm@gmail.com

※地図 1/25000 耶馬溪西部

4月月例山行：本宮山(607.6m)

「新大分百山に新たに選定された山に登る」

日 時……4月24日(日)

出 発……4月24日(日)

集合場所……西寒多神社駐車場 午前8時集合

参加申し込み期限・・4月18日(月)まで

担当リーダー・・平原健史

参加申し込み・・(携帯) 090-5470-0753

Email takeshi.o.scorpionking@docomo.ne.jp

※地図 1/25000 大分・野津原

古道調査について

日本山岳会は創立120周年記念事業として、全国の山岳古道を調査して、公開する事業を2025年に向けて行っています。当支部では、国東六郷満山「峯入り道」を紹介するため現在調査中でありま。調査距離が230kmと長いのでチームを3班体制で行っています。調査メンバーは現在30名ほどいますが、どなたでも参加できます。協力できる方は下記の日程で行いますのでよろしくお願いします。コロナ過で、活動日程が安定しませんので参加希望の方は必ずリーダーに確認して下さい。

古道調査 班編制と調査日程

【班編制】

A班 CL 佐藤裕之、中野稔、平原健史

B班 CL 鹿島正隆、下川智子、後藤英文

C班 CL 阿南寿範、安東桂三、櫻井依里

【調査割当】

2月12日（土） A班 p40～55

西村（応利山）～間戸（真木大堂）

2月26日（土） B班 p105～120

知恩寺～並石（並石ダム）

3月12日（土） C班 p175～190

行入（行入ダム）～京（上国東）

3月26日（土） A班 p55～70

間戸（真木大堂）～内河野

4月 日（土） B班 p120～135

並石（並石ダム）～有寺（猪野群山）

4月 日（土） C班 p190～205

京（上国東）～戸取（武蔵町）

5月 日（土） A班 p70～85

内河野～熊野（熊野磨崖仏）

5月 日（土） B班 p135～150

有寺（猪野群山）～千燈寺

9月 日（土） C班 p205～220

戸取（武蔵町）～成久（安岐町）

9月 日（土） A班 p85～90

熊野（熊野磨崖仏）～田井（真木大堂）

10月 日（土） B班 p150～160

千燈寺～山口（岩戸寺）

10月 日（土） C班 p220～231

成久（安岐町）～両子寺

2

調査の参考資料

○昭和55年度 歴史の道調査報告書 峯入りの道 大分県教育委員会（昭和56年3月発行）

○日本の街道地図 大分7峯入りの道（上記の大分県教育委員会が作成した1/50000地図を、森塚良郎氏が1/25000地形図に転記したもの。ネットで検索・印刷が可能）

古道調査主担当 井上高明 080-5210-9368

メール（事務連絡）一斉配信の不具合について

最近、事務局より会員相互のコミュニケーションを迅速に図るため、一斉メール配信する機会が多くなりました。その際、送信先のアドレスの不具合で常にメールの送信が出来ていない方がおられます。自分のアドレスにメールが届いていないと思われる方は、再度、空メールを事務局のアドレス（beca5844@oct-net.ne.jp）まで送り下さい。

会費未納の方へ連絡いたします

平素から支部活動にご理解を頂き誠に感謝申し上げます。皆様のおかげで令和3年度の事業計画はコロナ過ではあるものの大半の行事は終えることが出来ました。

さて、今年も1月を過ぎ期末が近づいて何かと慌ただしい時期となりました。

まだ、本部会費及び、支部会費をお納めでない方は、お納め頂きたくようお願い申し上げます。

よろしくお願いします。

第7回支部役員会開催のご案内

第7回 支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集下さい。

日 時……令和4年3月16日（水）

場 所……大分市西部公民館

- 議 題……①令和4年度事業計画について
②登山入門教室実践講座について
③古道調査について
④その他

緊急寄稿

先日倉木山に「山名標識」を設置した人がいる(分かっていない)。これは地主の許可がある。忘年登山の開会式に姿を見せた西さんは、例の紅白の山名標識を見れば必ず引き抜いて捨てた。記念に遺した数本の私標が並んだ墓場みたいな「大笹柄岳」山頂のゴミには失望した。なお、よく見る「安武」山名柱はヤブ山の先輩として私は認める。

当日支部長から「テープ付け」の注意があったが、東九州支部会員はマナーがよすぎる。登頂してきて独り下山、すぐの大事な分岐点どちらか、ボケて忘れている(安部夏の黒岳)。遭難時の目印、木の葉、紙テープ(回収)は単独行では付ける。でも「大分のかくれ名山」はひどすぎる。テープの指示で登れと乱暴な記事だ、人様の山ですぞ、まねする人でテープだらけだ、そのたび私たちが掃除した。

安部 可人(会友11)

後記

・今年になりある人から、「晴天をつけ」渋沢栄一のあとNHK大河ドラマは何かと尋ねられて、最近はテレビをあまり見ないので知らないと返事を返した。それなら教えてあげようのご丁寧に封筒が届いた。今年のNHK大河ドラマは、三谷幸喜原作の『鎌倉殿の13人』である。平安末から鎌倉時代の前期を舞台に、源平合戦と鎌倉幕府が誕生する過程で繰り広げられる権力争いの一場である。

(比企能員、梶原景時、和田義盛、中原親能、二階堂行政、大江広元、北条時政、北条義時、八田知家、足立盛長、三浦義澄、足立遠元、三好康信)それぞれの登場人物のかかわりが複雑で一旦目を離すと分からなくなる。これらの名前を覚え忘れないよう、最後まで楽しみ視聴しようと思う。

・先日あるところの庭先で、枝に黄色い花を見つけた。マンサクの花である。まだ1~2分咲と言うところである。昨日は大寒でとても寒かったが、春に向かい始めた証。マンサクは日本原産のマンサク科マンサク属の落葉性低木、日本の本州太平洋側から九州に分布しており、早春に咲くことから「まず咲く」「真っ先」が変化した説、多数の花が豊作に通ずることから「万年豊作」に由来するなどの説がある。(ウィキペディア)大船山麓には群生地がある。

(T.A)

公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第96号

2022年(令和4年)1月25日発行

発行者 安東桂三

編集者 阿南寿範

印刷所 (株)佐伯コミュニケーションズ

発行所 事務局

〒870-1113 大分市中判田15-55 阿南方

TEL・FAX 097-597-7120

E-mail beca5844@oct-net.ne.jp



山溪

西日本最大級の品揃え!
since 1968
登山・キャンプ専門店
大分市生石1-3-1

1968年創業の山溪が あなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の
110番
開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。

GO ミ ナ サンサンサン

TEL 537-3333
FAX 537-3388

- 西大分「交番」前高崎地入り口
- JR西大分駅より歩いて6分
- 10時~19時30分 ●火曜定休日